

| | | | |
|---------------|---|-------|--------------------|
| 授業科目名 <英訳> | 偏見・差別・人権 Prejudice, Discrimination, and Human Rights | 担当者氏名 | 国際高等教育院 特定教授 三輪 哲二 |
| | | | 非常勤講師 豊福 誠二 |
| | | | 農学研究科 助教 鈴木 哲仁 |
| | | | 人間・環境学研究科 教授 西山 良平 |
| | | | 人間・環境学研究科 教授 江田 憲治 |
| | | | 文学研究科 教授 伊藤 公雄 |
| | | | 国際高等教育院 特定教授 植松 恒夫 |
| | | | 医学研究科 准教授 加藤 寿宏 |
| | | | 文学研究科 准教授 児玉 聡 |
| | | | 経済学研究科 教授 文 世一 |
| | | | 人文科学研究所 教授 水野 直樹 |
| | | | 医学研究科 講師 岩江 荘介 |

| | | | | | | | |
|-----|-----------|-----|-----------------|------|-----|------|-----|
| 群 | 現代社会適応科目群 | 系列 | 法・倫理コンプライアンス系科目 | | | | |
| 旧群 | A群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 講義 |
| 開講期 | 前期 | 曜時限 | 月1 | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |

[授業の概要・目的]

人間社会における偏見と差別に関わる諸問題を人権の観点から学問的に解明し、教授することは大学として果たすべき重要な基本課題であるという認識のもと、本学学生に人権問題に関する概論の講義を教授するとともに、教員自身が積極的に研究・学習する機会とするため、全学共通科目「偏見・差別・人権」を開講し、学生・教員がともに人権問題について学び、考える場を提供する。

[授業計画と内容]

次の5つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマに関する講義とディスカッションの組み合わせにより実施する。

i. 現代社会における人権の問題

講義担当：国際高等教育院 非常勤講師 豊福 誠二(4/14,4/21)

近年問題になっている「ヘイトスピーチ」を取り上げる。

表現の自由についての基礎知識を習得しつつ、ヘイトスピーチの害悪及びこれに対する社会の取り組み方について思考を深めていく。

ディスカッション担当：農学研究科 助教 鈴木 哲仁(4/28)

ii. 被差別部落に関する問題

講義担当：人間・環境学研究科 教授 西山 良平(5/12,5/19)

日本の中世・近世を中心に身分による人々の差異化（差別）や障がいなどについて検討し、また現在における身分差別をめぐる言説について考える。

ディスカッション担当：人間・環境学研究科 教授 江田 憲治(5/26)

iii. ジェンダーに関する問題

講義担当：文学研究科 教授 伊藤 公雄(6/2,6/9)

ディスカッション担当：国際高等教育院 特定教授 植松 恒夫(6/16)

第1回(6/2)：ジェンダー概念の説明とともに、性差別の歴史と現状について講義を行う。

第2回(6/9)：性暴力の問題について講義を行う。人身取引問題やDV問題などにもふれる予定である。

第3回(6/16)：身近な性差別問題から社会的な性差別・性暴力の課題まで、

偏見・差別・人権(2)へ続く

偏見・差別・人権(2)

グループ討論を行い、問題解決の方向性を探る。

iv.障がい者に関する問題

講義担当：医学研究科 准教授 加藤 寿宏(6/23,6/30)

地域の学校に在籍する児童・生徒のうち発達障害（自閉症スペクトラム、学習障害、注意欠如・多動性障害）の可能性がある児は、6.5%といわれている。発達障害者の中には、優れた知的能力をもつ者も多いため、大学や職場で関わる機会も多い。しかし、発達障害は目に見えない障害であるため、偏見・差別が生まれやすい。本講義では視聴覚教材、グループ討論を通し発達障害についての理解を深める。

ディスカッション担当：文学研究科 准教授 児玉 聡(7/7)

v.外国人に関する問題

講義担当：経済学研究科 教授 文 世一(7/14)

差別の問題に関する経済学の研究成果を紹介し、差別による被害を解消するための政策のあり方について論じる。

講義担当：人文科学研究所 教授 水野 直樹(7/17)

戦前・戦後の在日朝鮮人の歴史、日本政府の政策の変遷を概観するとともに、現在の日本に居住する外国人の状況を考える。

医学研究科 講師 岩江 荘介

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

15回(講義またはディスカッション14回、テーマvのレポート提出1回)中11回の出席を前提条件とし、試験80点、テーマ5のレポート20点の計100点で評価を行う。

試験：テーマi～ivの課題から2題を選び回答。各40点の計80点で評価。持ち込み不可。
テーマvのレポート：20点で評価し、出席1回分にカウントする。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

附属図書館、吉田南総合図書館、医学部図書館、農学部図書館に関連書籍有り。

(関連URL)

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/human_rights

[その他(授業外学習の指示等)]

履修定員は100名程度とする。(超過する場合は制限する)